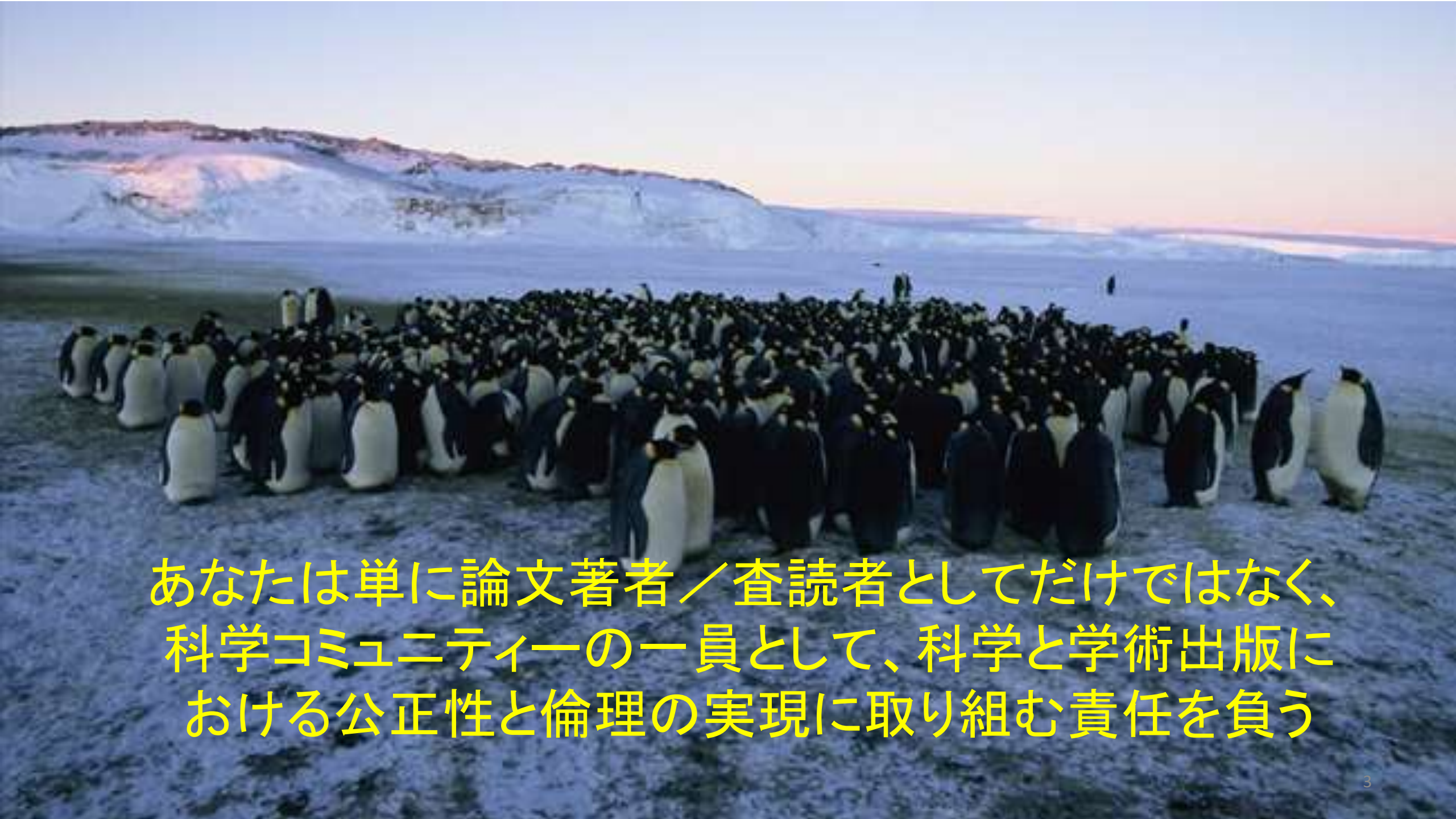
責任ある論文著者・査読者と AGU出版について

AGU Publications

publication@agu.org

ピア・レヴュー（査読）と学術出版は:

- 科学と社会に対して研究者、査読者、ジャーナルエディター、出版社が共同で担う責任
- 科学とその発展において公正性と説明責任を確保するための基礎となる側面
- 法や規制の分野において学術文献の使用が増加傾向にあるなど、社会的重要性が高まっている
- そのことが意味するのは…

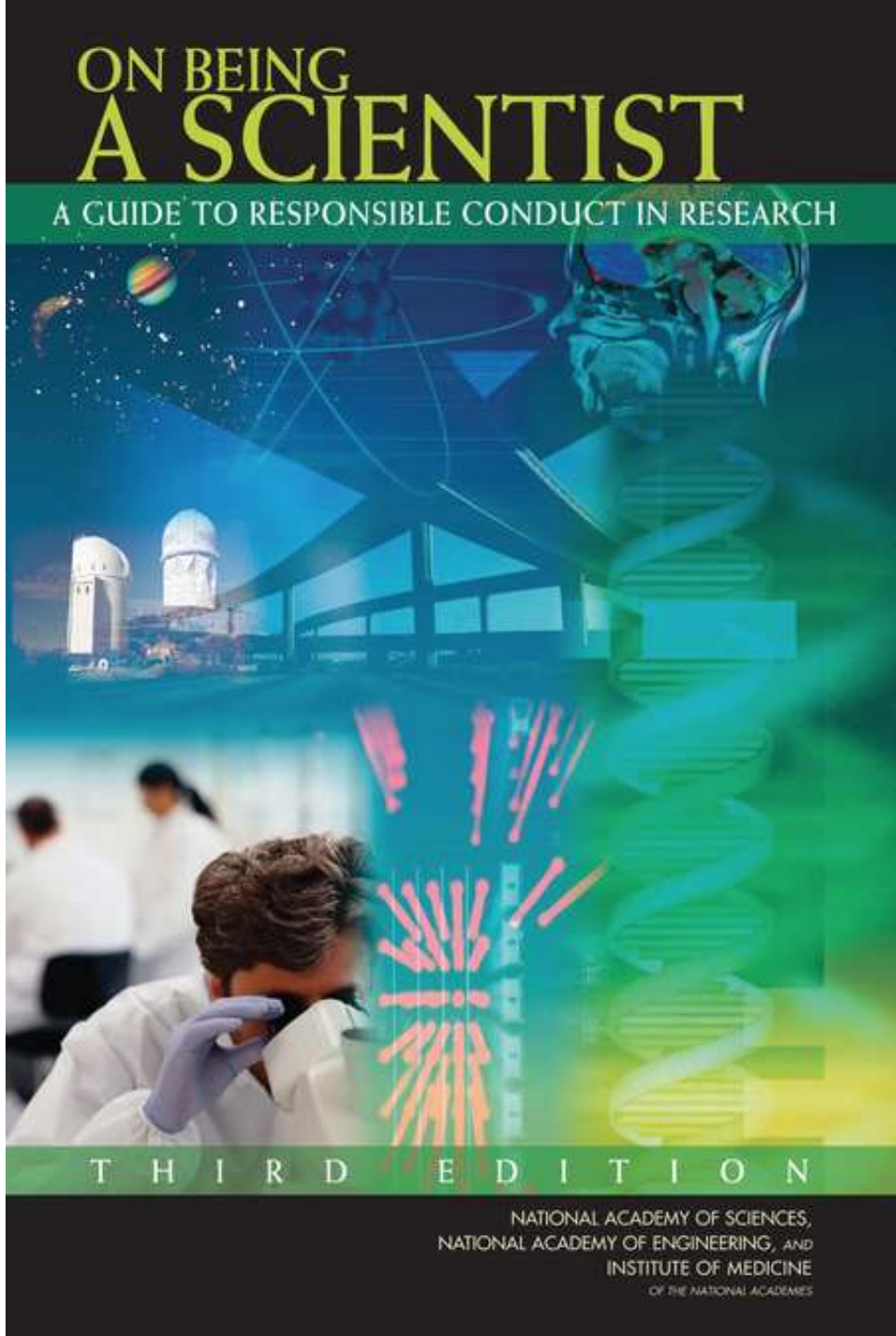

あなたは単に論文著者／査読者としてだけではなく、
科学コミュニティーの一員として、科学と学術出版に
おける公正性と倫理の実現に取り組む責任を負う

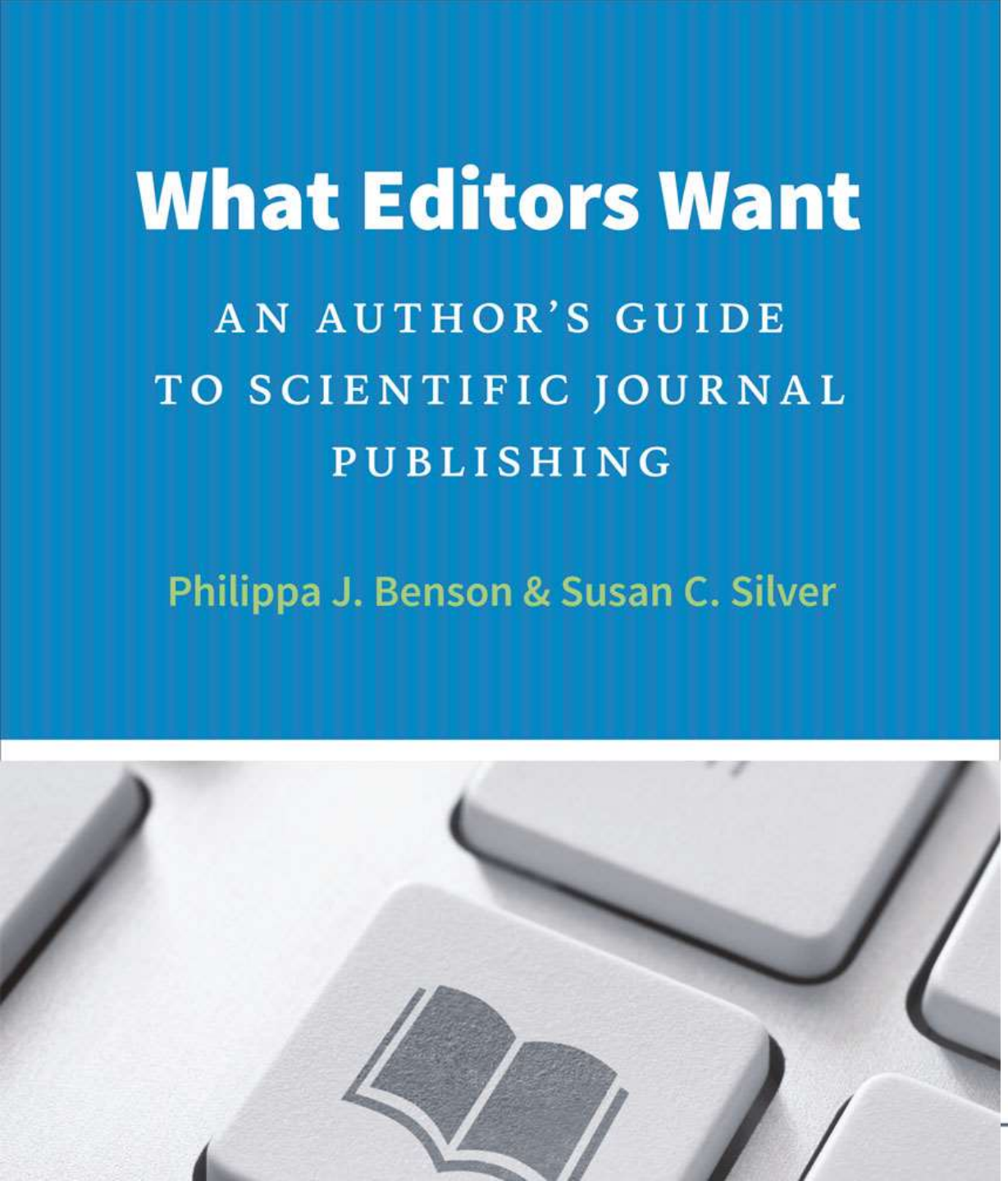
主要なリソース

多くの出版社は論文執筆と査読に関するガイドラインを設けている:

http://publictions.agu.org
http://ethics.agu.org

優れた一般的な参考文献: On Being a Scientist (オンラインで無料公開). National Academies of Science





その他のガイド:

シカゴ大学出版局

著者BensonとSilverは、ある論文を出版する可能性が最も高い学術誌をどのように見つけるか、効果的なカバーレターの書き方、投稿の過程ではまりがちな落とし穴、査読プロセスの特に重要な局面を乗り切る方法（リビジョンやリジェクト判定への対処法など）について読者に指針を与える

Amazonから購入可能

もうひとつの良質な無料の執筆ガイド・著者向けリソース・キャリアアドバイス:
http://serc.carleton.edu/NAGTWorkshops/index.html

責任ある著者とは

計画・準備は論文投稿のずっと前に始まる
ー すなわち研究を開始する時点から

- 著者になるのは誰か ー 研究の開始時点で提案し、その後も協議し続ける。記録を取ること。
  - 著者資格について書面（メール）で合意する
  - 共著者になったら参加し、著者としての義務を果たすこと
- データの入手可能性／サンプル／キュレーション ー これらの点を研究の開始時、実際にデータやサンプルを収集し始める前に考慮すること
  - 研究を再現可能なものにする方法に関するツール: http://www.copdess.org/resources-for-researchers/
- 産業界とのコラボレーション: データを出版・好評するための許可を事前に書面で取得。大学のIP（知的財産権）専門家に相談

著者としての責任

- データや分析の提供を求めたり受け取ったりする際は、自分が期待する水準を書面で伝える
- 全ての共著者と十分かつ頻繁に連絡を取る
- 著者となることに合意した以上は、その時点で取り組んでいる別の関連論文を含めて、自らの知識を十分に共有する。パートナーシップとはそういうこと。論文や分析における編集やコメントは責任を持って速やかに行う

著者としての責任（続き）

- 共著者全員が論文を読んで内容を承認し、執筆者となることに合意したことを確認する
- 執筆した論文を同時に複数のジャーナルに投稿するのは倫理違反。投稿時および修正後の再投稿時とも、論文の新規性を示す
- 出版時にデータがアクセス可能となるよう早期に準備する
- データを出し惜しみせず、最良のデータを提示する
- 推測・推論は、その前提を明示した上で簡潔に行うのであれば許容されうる

投稿を検討しているなら

- まずは同僚のレビューを求める
  - 批判的に評価するよう依頼する
  - それによって論文の質が上がり、実際の査読が迅速に進むため、最終的に時間が節約できる
- 投稿規定とインストラクションを読み遵守する
- 投稿前の期間であっても、エディターとコミュニケーションを持ってよい
  - 学会で
  - ジャーナルが自分の研究に興味を持つか探る
- カバーレターを用意する際、なぜそのジャーナルを投稿先として選んだか説明する

有力なジャーナルに見られる傾向

- 著者に対してORCIDの提出を求める (Orcid.org)
- データと全ての引用が出版時においてアクセス可能であることを求める
- サンプルに関してIGSNの使用を推奨する（国際的なサンプル識別子）
- 全ての投稿論文に対して剽窃検知プロセスを適用する
  - メソッドを含む文章の一部が引用元を示さずにコピーされている場合、その投稿論文は却下される
- 全ての共著者に対して投稿を通知する
  - 共著者全員が最終原稿を読み、投稿に合意していない場合は、その論文は却下される

ORCID.org　出版社や学会が用いる永続的な研究者ID

Search

ORCID

Connecting Research and Researchers

FOR RESEARCHERS | FOR ORGANIZATIONS | ABOUT | HELP | SIGN IN

DISTINGUISH YOURSELF IN THREE EASY STEPS

ORCID provides a persistent digital identifier that distinguishes you from every other researcher and, through integration in key research workflows such as manuscript and grant submission, supports automated linkages between you and your professional activities ensuring that your work is recognized. Find out more.

1 REGISTER　Get your unique ORCID identifier Register now! Registration takes 30 seconds.

2 ADD YOUR INFO　Enhance your ORCID record with your professional information and link to your other identifiers (such as Scopus or ResearcherID or LinkedIn).

3 USE YOUR ORCID ID　Include your ORCID identifier on your Webpage, when you submit publications, apply for grants, and in any research workflow to ensure you get credit for your work.

IGSN

- 地球科学の物理的なサンプルに関して使用される国際的に固有で永続的な識別子
  - IGSN e.V.が運営する一元的なコントロール・メカニズムにより固有性を保証
  - IGSNのアロケーティング・エージェントが連携して管理するバーチャル・サンプル表示（サンプル・メタデータ・プロファイル）に解決される

IGSN: GMY00007W

IGSN:	GMY00007W
Sample Name:	TN182_47_002
Other Name(s):	
Sample Type:	Individual Sample
Parent IGSN:	GMY00001B

Description

Material:	Rock
Classification:	Igneous>Plutonic>Mafic
Field Name:	gabbro, hornblende gabbro
Description:	mafic plutonic rock

IGSN: SSH00001H

IGSN:	SSH00001H
Sample Name:	SPMS01 40-50 cm
Other Name(s):	
Sample Type:	Terrestrial Section
Parent IGSN:	SSH000002

Description

Material:	Soil
Classification:	Sedimentary
Field Name:	Not Provided
Description:	Bulk

IGSN: HRV003M16

IGSN:	HRV003M16
Sample Name:	103543
Other Name(s):	
Sample Type:	Individual Sample
Parent IGSN:	Not Provided

Description

Material:	Mineral
Classification:	Malachite
Field Name:	Not Provided
Description:	Not Provided

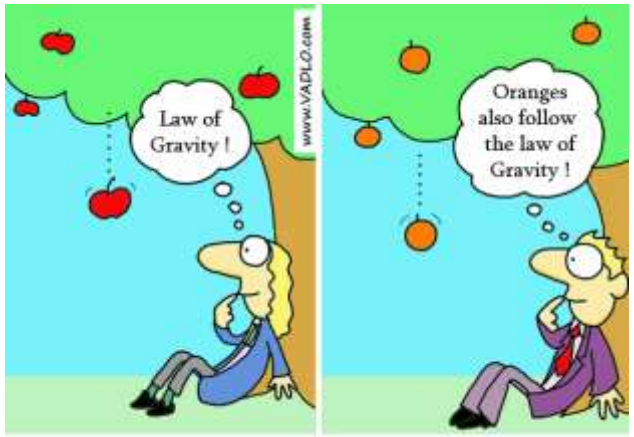
AGU データ・ポリシー

AGUポジション・ステートメント(1997年発効): 地球科学と宇宙科学のデータは複数のフォーマットにおいて広くアクセス可能とされるべきで、データの長期的な保存は科学者とそれを助成する機関が不可欠な責任として負う。

- AGU出版のポリシーは他の主要なジャーナルのそれと同様である(http://copdess.orgを参照)。出版物に関連するデータはアクセス可能でなければならない
- データは論文の一部であり、広くアクセスが可能であるべき
- 分野別リポジトリの利用が好ましいが、利用可能でない場合は汎用的リポジトリ、もしくは絶対に必要である場合にはサプリメントで
- 論文の図、グラフ、プロット、動画、アニメーション、表を作成するために使われたか、もしくはそこに表示されるデータは、デポジットされるべき
- 結果を解析を引き出すために使われた新しいコードやコンピュータ・ソフトウェア
- Unpublished（未刊行）やIn press（出版準備中）の文献を引用しない
- リポジトリの各データセット先を引用またはリンク（これは最良実践であり、信頼性を高める）

良い論文とは?

- どの論文も、知識の進歩につながる少なくとも1つの明確で重要なアイディアを持つべき
- 標準的な科学論文のスタイルに従う
  - 抄録
  - イントロダクション
  - メソッド
  - 結果
  - 結論と議論
- タイトルは研究の主要な目的かまたは結論を反映
- 抄録は論文の簡潔な要約
  - 研究の動機、何を行ったか、何が分かったか、主な結論を含む
  - 簡潔にまとめる
- 論文は物語を伝えるもの — あるセクションから次のセクションへと繋がるように書かれる
- 良い英文は意味を伝えるための基礎として重要
  - 質の低い英文は誤解や曖昧さにつながる
  - 準備にあたって注意を怠ったという印象を与える
  - 一部の査読者を怒らせ、通常よりも批判的な評価をもたらす



High Impact Paper　Low Impact Paper

論文投稿に向けての準備

- 著者向けインストラクションを読み、それに従う
  http://publications.agu.org
- エディターと査読者が読みやすいものにする
  - エディターに送るカバーレターの中には、なぜそのジャーナルに対して投稿するのかという理由を記述
  - スペルチェックを行う
  - ネイティブの英語話者に校閲を依頼する
  - 図を本文に取り込む

良い抄録は重要！ 査読者にコンタクトするために使われ、出版後には読者が論文を発見する助けになる。従って抄録が備えるべき要素は…

1. 議論される科学的な課題を明示する
2. 分析とデータを簡潔に記述する
3. 主な結果と但し書きを述べる

また抄録はこうあるべき

- 本文とは明確に分かれていること
- 頭字語を含まない
- 引用を含まない
- 略語を含まない
- 研究の結果から影響を受ける、より広範な文脈を提示する
- 専門用語の使用をできる限り控えるが、その分野で欠かせないキーワードは含める（読者から発見されやすくするため）
- 論文のタイトルも研究主題に関連するキーフレーズを含めるべきだが、過度に見栄えを意識したタイトルは避ける

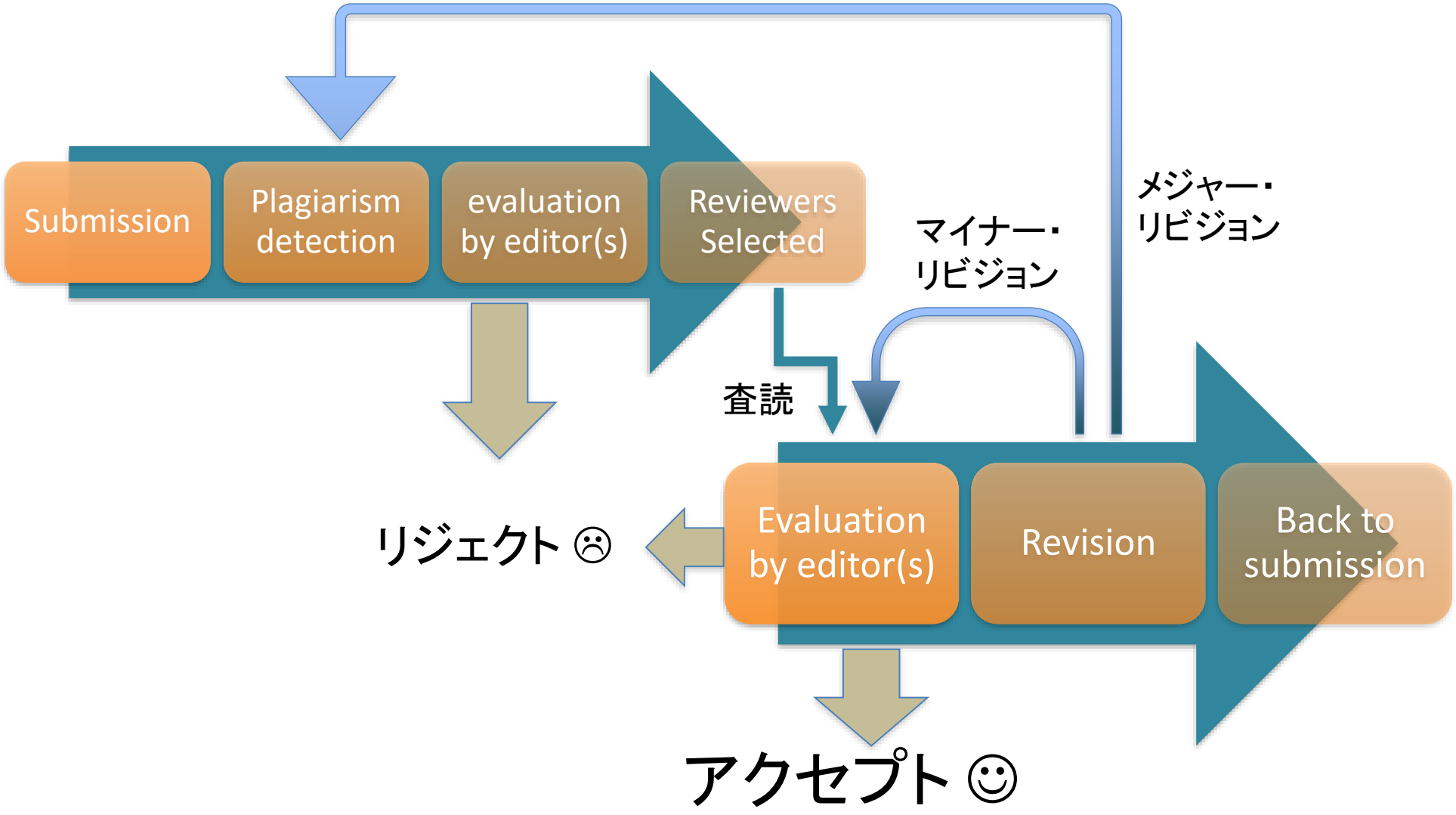
さらに…

能動態を使って結果を述べる。”The impacts or data are discussed…”（インパクト／データが議論される）の代わりに、”The data/analyses indicate that…”（このデータ／分析は次のことを示す）と書く

データを超えた誇張・主張は避ける

責任ある査読者とは

査読のワークフロー


Submission
Plagiarism detection
evaluation by editor(s)
Reviewers Selected
マイナー・リビジョン
メジャー・リビジョン
査読
リジェクト ☹
Evaluation by editor(s)
Revision
Back to submission
アクセプト ☺

一般的なガイドライン

- 他者（著者・査読者・エディター）には、自分が接されて嬉しいのと同じ態度で接すること。
- 論文・交信記録・レビューはいずれも機密情報。信頼の下に査読者者に提供されたものである。レビューを許可なく公開してはならない
- お互いの信頼の下に行動すること

査読の目的は

- ジャーナルが扱う領域内において科学を進歩させるのに最善な論文をエディターが選ぶのを助ける
- 論文の質を向上させ、またその内容が読者に伝わりやすいものとするために、エディターと著者に必要な方法を示す

ジャーナルが設定する基準を満たすように修正することが容易でなかったり、他のジャーナルで出版されるほうが適切と考えられる投稿論文もある。それはリジェクトされる

査読者は

- 全体的な評価と詳細なコメントを速やかに提出するよう求められる
- エディターに対して内密なコメントを与えることができる
- 投稿論文の機密を守る
- プロフェッショナルな態度を守り、論文の科学的内容とその記述方法についてコメントする（著者に対する個人的な批判は許されない）
- 自身が手掛けている研究と近すぎる内容の論文であれば、査読を断る。その他の利益相反(COI)も開示する

査読者としての臨み方

- 査読者向けのインストラクションを読む
- 査読に真剣に取り組む。十分な時間をかけて論文を読み、注意深くコメントを書く

著者に敬意を払い、建設的で具体的なコメントを行うこと。「これは意味が分からない」では助けにならない。「図Xがどのように結論Yに至るのかが明確でない」とすることで、著者は何を変えればよいのかが分かる

査読者のために: 論文を査読する際のキーポイント

- 論文の主要な結論とそれがもたらす貢献が分かるよう要約し、またメジャー・リビジョンが求められる部分を提示する
- 個々のコメントにナンバーを振り、ページ・行番号を記述する
- 論文の問題を具体的に挙げる

考慮すべき典型的な問い

- 論文が取り扱う課題が適切に定義されているか
- 著者は研究の基礎を十分に提示しているか
- 結果を再現するのに十分なデータ・モデル・機器・メソッドが記述されているか
- メソッドをより効果的なものにすることはできるか
- 得られた結果は統計的に有意か。結論は科学的に重要か
- 結論をより明確に表現する方法はあるか。結論をより効果的に支持し記述する方法はあるか
- この論文は注目に価するか。もしそうであれば、その理由は

査読者の顕彰

- 現在、AGUとその他いくつかの出版社は、ORCIDと提携し、公式にレビューを顕彰している
- AGUジャーナルの査読者は毎年リストに挙げられる
- トップ査読者はエディターによって選出され、Eos.orgで顕彰される
- AGU秋期ミーティングにでは著者・査読者のためにレセプションを開催

査読者になる

- エディターは良い査読者を探している
- 主要なジャーナルに投稿し、主要な学会で発表を行うことで業績を認知させる
- 責任感があり他者に敬意を払える著者になる
- GEMSやその他のオンライン投稿・査読システムで自分のプロフィールを更新する
- 特に学会において、自分の分野のエディターとコンタクトを取る
- 査読を依頼された場合は、責任を持ち期日を守って査読を行う

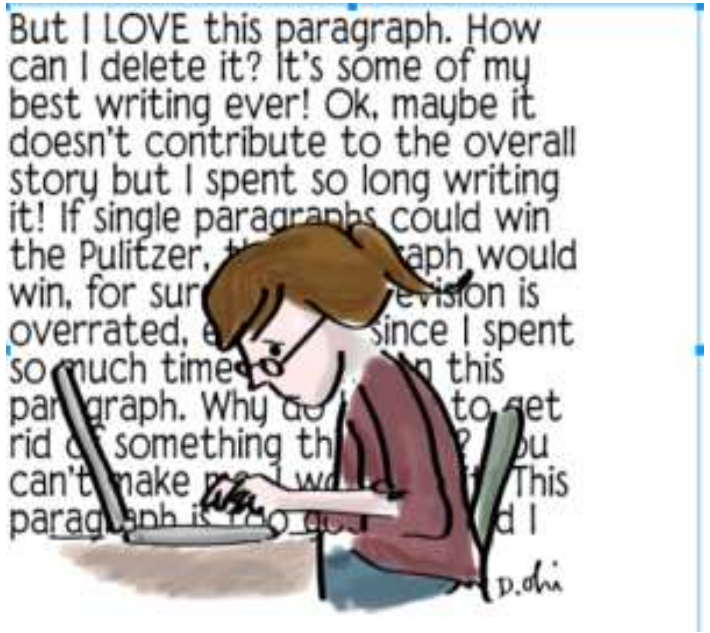
査読はライティング能力も向上させる

- **査読は批判的評価のスキルを高める**
  - よくありがちなミスを実際に目にして学べる
  - 批評に対してジャーナルが著者のどのような反応を求めているかを知ることができる
  - 詳細に対する注意の重要性に気付く
  - 図に関わる典型的な問題を認識するようになる
  - 抄録の重要性をより深く理解するようになる
  - 他人よりも先に最新の発見を目にすることができる
  - 自身の意見が科学に影響を与える
- よい査読者であれ！ 有意義に過ごした時間が自身の論文執筆に役立つ

著者が査読結果を受け取ったら

編集部の判断

- エディター（アソシエイト・エディターまたはエディター）は、複数の査読結果を総合し、判定を行う（リジェクト、メジャー・リビション、マイナー・リビジョン、アクセプト）。最終的な決定を下すのはエディターである
- 投稿論文が一回でアクセプトされることは滅多にない
- リバイズされた論文が再度査読に回ることもある
- 質問があればエディターまたはAGUのスタッフに問い合わせることができる



著者としての査読への臨み方

- 査読結果が何であれ、個人的に受け取らない
- 査読結果を読んで、自分の論文の質を上げる方法を知る。酷評からでも学ぶことがある
- ネガティブな評価と酷評は同義ではない
- 査読結果を真剣に受け止める。査読者は読者のサンプルである
- もし査読者が誤解していたら、まず自分の説明が明確でなかったという可能性を疑う

査読結果への対処法

- 査読結果は、結論がさらに裏付けを必要とするのはどの部分かを示す批評だと理解すべき
- もし自分に何が求められているかが分からなければ、エディターに説明を依頼する
- たとえ査読者が自分への敬意を欠いたとしても、自分自身は敬意を守って対応をする。その査読者を選んだのはエディターであり、場合によってはその査読者を推薦した自分だったかもしれない！！
- レヴューアーは、自分の論文が読者としてターゲットにする科学者にほかならない。もし自分の論点が誤解されたなら、説明が良くなかったということを示唆している
- 査読ごとに主要な指摘に対応する。査読者の提案に従わない場合は、その理由を明確に説明する。査読者に同意しなくてもいいが、理由の説明を怠ってはならない
  - 査読者に同意しない理由としては、査読者による誤解や、コメントが論文の対象外であることなどが考えられる（その場合もその旨説明すること）

もし投稿論文がリジェクトされたら ☹…

- 多くの論文が、投稿直後または査読後にリジェクトされる。
  - *Science/Nature* – 論文採択率は6%.
  - *Geophysical Research Letters* ー 30%
  - その他のAGU誌は50-60%
- ほとんどの場合、レターにおいて特に要求されていない限り、同じジャーナルに再投稿して受理される可能性は低い
- 査読に回らずリジェクトされた場合は、エディターが論文の対象がジャーナルに合わないと判断した可能性がある。その場合、他のジャーナルに投稿するほうがよい
- 査読後にリジェクトされたのであれば、査読者が論文を完全に誤解している確信できる場合を除いて、リバイズして他のジャーナルに投稿する。多くの場合、判定は全査読者の総合的な評価に基づいて行われていて、ひとつのレビュー中の特定のコメントによるのではない

エディターの役割:

- **エディターの中心的な仕事は、あなたがた著者とその科学研究を支援すること**
- **エディターは、自分のジャーナルと科学のあり方を最適な状態にすることをめざしている。そのため、論文が自分のジャーナルに適しているかどうかを判断する材料が十分にあると考えられる場合には、完全なピア・レヴューを待たずに判定することがある**
- **思慮深くあること:** エディターは最高の基準をめざしている。そのため、（もし明らかに論文の質が低ければ）査読に回すことなく、また（十分な改善が見られなければ）２、３回のレビューの後にでも、論文をリジェクトせざるを得ないことがある
- **アウトリーチ:** エディターは人々と協議し、またアイディアを聞き、AGUへの論文投稿を促し、また良い査読者を探している
- **敬意:** エディターはすべての人を敬意を持って扱う。高いポテンシャルを秘めていながら適切に提示していない論文に多くの時間を割いている

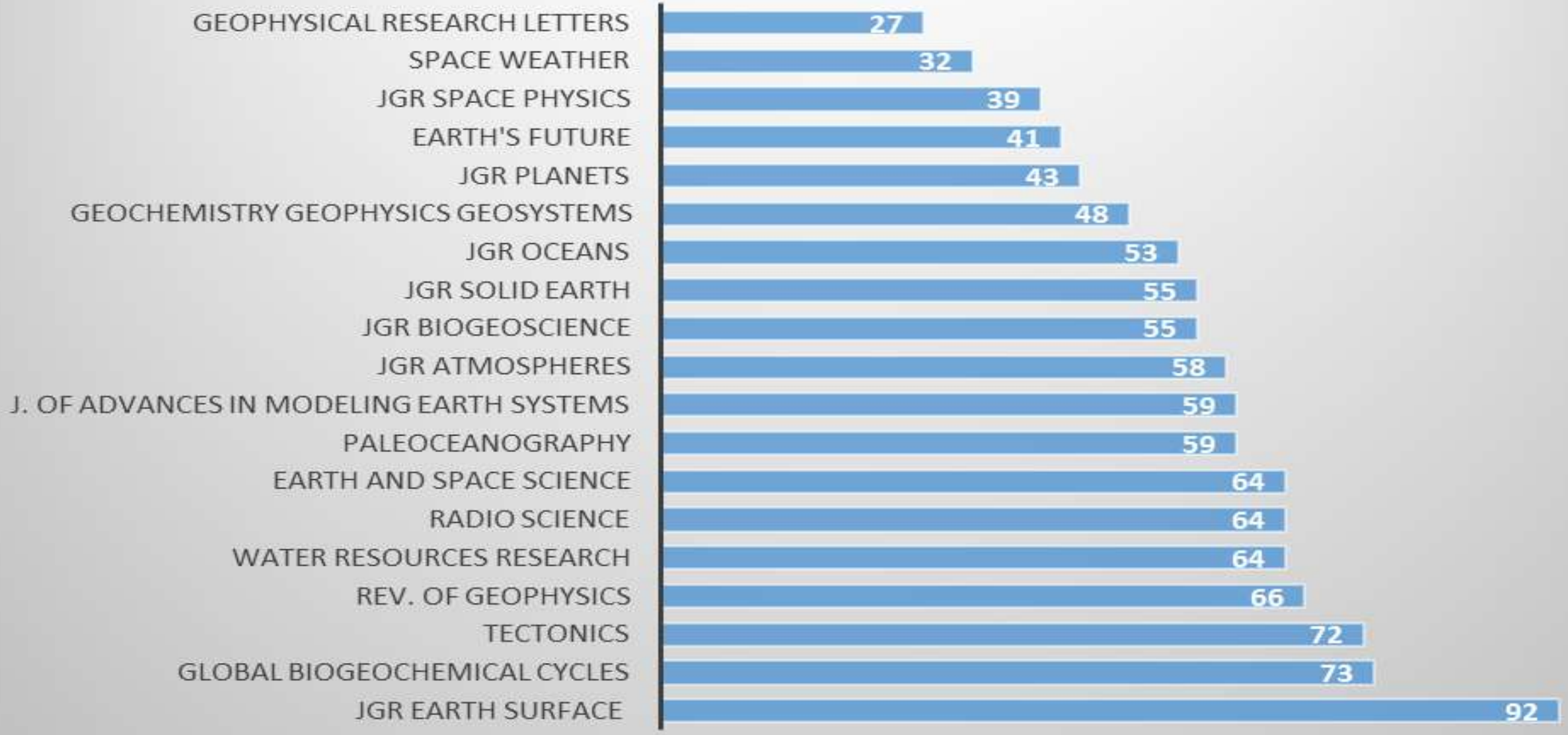
AGU PUBLICATIONS

- 地球・宇宙科学における最大の出版社
  - ジャーナル20誌のうち、4誌はゴールド・オープンアクセス、その他は著者がオープンアクセスを選択できる
  - 毎年6千報の論文を出版
  - 毎年600報をオープンアクセスで出版
  - 特集号やコレクションも多数
  - 過去2年間の投稿論文数は10%以上増加
- 長年にわたり質とインパクトに高い評価
- 生物地球化学や元素循環から気候や宇宙空間物理学まで、また太陽系の形成から地球の未来、さらに「地球科学と健康」まで広くカバー
- 出版から24ヶ月を経た全ての論文を無料公開

なぜAGUジャーナルに提出するのか?

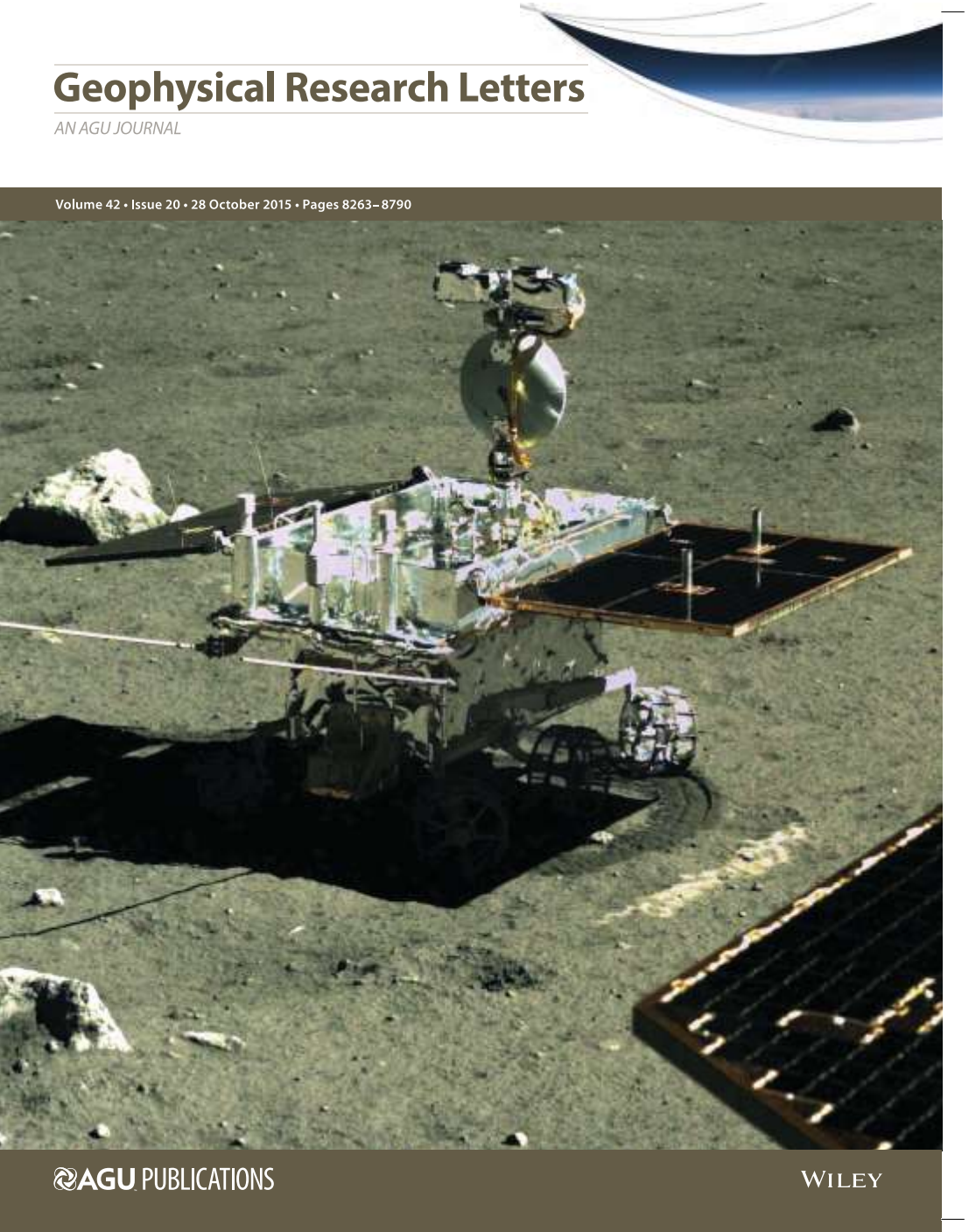
- 質の高さ
- 読者の目に届きやすく、インパクトが高い（EosやAGUのソーシャル・メディアで言及され、毎月100万のダウンロードがある）
- 迅速な採否判定（いくつかのジャーナルでは4週間以内、ほとんどは8−9週間以内）
- 出版が速やか
  - 採択から数日中にオンライン公開
  - 最終版は3−4週間内
- 各分野のコミュニティーと繋がっているアカデミック・エディター
- オープン・アクセスのジャーナルとオプション
- 投稿が容易

AGU is Committed to Efficient Decisions: Median Days From Submission to First Decision in 2016



AGUジャーナルの論文タイプ

- **リサーチ・アーティクル**: 良質で独自性のある科学研究
- **レビュー:** 最近の研究の概観と統合 — 通常は*Reviews of Geophysics*誌に掲載 (投稿前にまずはエディターにコンタクトを)
- **テクニカル・レポート、メソッドとデータ:** 新しい知見や応用の可能性を提示するデータ測定や手法の記述。*Earth and Space Science*誌に最適
- **その他:** コメンタリー、エディトリアル、コメント／返信（まずはエディターにコンタクトを）



AGUは私たちの科学を推進します

https://publications.agu.org/recent-highlights-across-agu-publications/

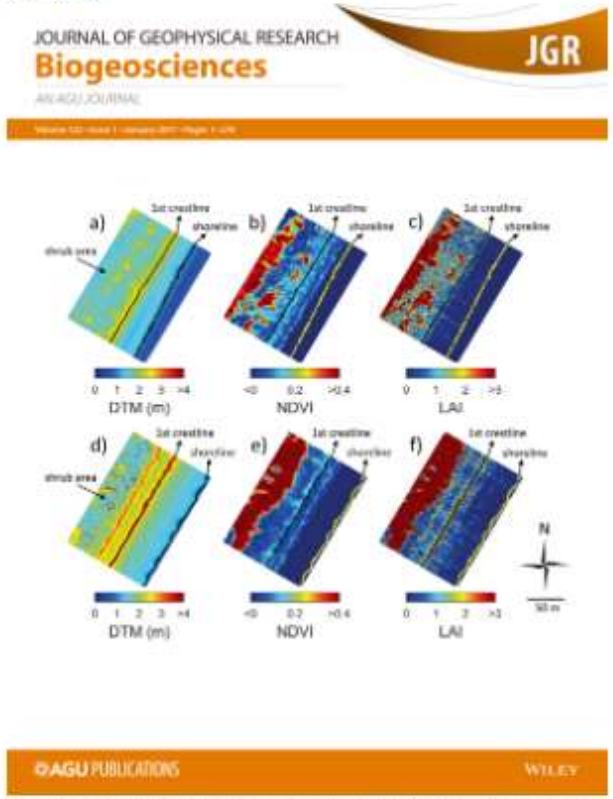
カバー
プレス・リリース
ブログ
ソーシャル・メディア
一般読者向けのサマリー
全ての論文のオルトメトリクス
Eos: リサーチ・スポットライト
コメンタリー
Editors' Vox（AGUエディターの声）
　など多数

RECENT HIGHLIGHTS ACROSS AGU PUBLICATIONS

Here's a sampling across recent highlights from AGU's journals and books, including coverage in **Eos.org**, major news media, items trending on social media, and more.

RECENT COVERS

View all



Coupled topographic and vegetation patterns in coastal dunes: Remote sensing observations and ecomorphodynamic implications in ***JGR: Biogeosciences***

IN THE NEWS

Canada's Oldest Ice Is Melting Away Due to Climate Change in ***GRL*** (Read in **Seeker**)

Climate Change is on Pace to Kill an Ice Age Remnant in ***GRL*** (Read in **Climate Central**)

Europe Faces Annual Extreme Coastal Floods in Future in ***Earth's Future*** (Read in **Climate Central**)

VIEW MORE ▸

TRENDING IN SOCIAL MEDIA

Holocene history of deep-seated landsliding in the North Fork Stillaguamish River valley from surface roughness analysis, radiocarbon dating, and numerical landscape evolution modeling in ***JGR: Earth Surface*** **--Altmetrics report**

Omori-like decay of postseismic velocities following continental earthquakes in ***GRL*** **-- Altmetrics report**

Anthropogenic Warming Impacts on California Snowpack During Drought in ***GRL*** **--Altmetrics report**

Weakening of Atmospheric Information Flow in a

Publications | **Resources**

- Journals
- Books
- *Eos*
- Journal Editors
- Submit a Paper
- Author Resources
- Reviewer Resources
- Highlighted papers
- Usage Permissions
- Publications Statistics
- Kaula Award
- Publication Policies
- Editor Searches

EOS.ORG RESEARCH SPOTLIGHTS

- **Satellite Data Reveal Effects of Aerosols in Earth's Atmosphere** 24 Mar 2017
- **Including Ozone Complexities in Climate Change Projections** 22 Mar 2017
- **Explaining Why Some Paleomagnetic Results Fail** 22 Mar 2017
- **Scientists Probe the Calm After Solar Storms** 21 Mar 2017
- **Sun Glitter Provides a Detailed Map of Ocean Waves** 20 Mar 2017

EOS.ORG SCIENTIFIC PRESS

自分の論文を読者に発信する

- 論文の投稿時に、Plain Language Summary（一般読者向けに、専門用語を使わずに書いた抄録）を付けましょう。論文の出版後にソーシャルメディアで利用できます。 Plain Language Summaryの書き方のコツはこちら
- 自分の研究成果にニュース性があると思ったら、AGUのジャーナル編集部にそのことを伝えましょう。ニュース性がある研究成果とは?
- 所属機関の広報部門にも伝えましょう。広報部門は、所属研究者の活動を多くの人に知ってもらいたいと常に願っています。 科学的成果をメディア経由で発信するには
- ソーシャルメディアで発信しましょう。自分の論文についてツイートする際は、@theAGU および #AGUPubsOnline を加えると効果的です。ソーシャルメディア利用のガイドライン
- Kudosにユーザー登録して活用しましょう。Kudosは、自分が出版した研究成果を平易な言葉で説明し、発信できる無料のオンラインプラットフォームです。
- AGUが論文著者のために用意した ツールキット をダウンロードしましょう。検索エンジンで自分の論文が上位にヒットするようにキーワードを最適化するためのコツなど、自分の研究のインパクトを高めるための方法が分かります。

ご覧いただき
ありがとう
ございました！

何かご質問は？